

特集

若き6代目、
廃業寸前のにんにく農園を救う

品質に妥協なし！安全な国産野菜を届ける

青森県田子町は「にんにくの町」として知られ、収穫期になると車窓からもにんにくの匂いが立ち込めてきます。アイヌ語を語源とする地名や、縄文時代の遺跡が多く残るこの雪深い町で、日々「にんにく作り」に奮闘しているのは種子(たねこ) 宏典さんです。一時は廃業寸前だった家業の「にんにく農園」を立て直したのは「人と人のつながりを大切にする」という真摯な姿勢でした。厳しい自然環境の中、家族と助け合いながら「にんにく作り」にまっすぐ向き合う、種子さんのお話をご紹介します。

「お父さん農業やめて、土方(どかた) するって！」

種子(たねこ) 宏典さんは、にんにくの町として有名な青森県田子町で育ちました。進学を期に上京、司法書士をめざし猛勉強をする日々でした。東京で就職しようと母に相談したところ、「そっちで就職して、好きなことやれ。こっちは赤字続きで、農業は続けられない！」と突然の宣言。「金のかことは心配するな」仕送りを受けていた種子さんは、「実家が、そこで追い込まれていた…」とその時初めて知りました。それまでは「農業をやっていたら、食いつぶれはないだろう」と考えていたのです。

にんにくの町にも、過疎と高齢化。 農家が激減・・・

1960年代初めまで「炭焼き」を主要産業としていた田子町では、炭の消費縮小で仕事を失った多くの人が、東京に出稼ぎへ向かいました。人口減少に危機感を覚えた町役場と農協は一体となり、にんにくの生産に活路を開き、努力を重ねていきました。その結果、生産量と品質の高さから田子町は「にんにくの町」として知られるように。しかし90年代に入り、中国産の輸入品によりにんにくの価格は暴落。合わせて山間の過疎地に特有の高齢化と人口減少が、農家の数は半分以上にまで激減しました。



青森県田子町
種子宏典さん

安全な国産にんにくが、ネットで話題に

24歳で田子町に戻った、種子さん。ちょうどその年に「中国産毒入り餃子事件」が起こり、虫の息だったにんにく農家はかろうじて息を吹き返しました。安全な国産野菜を望む消費者の声が高くなる中、種子さんは独学でホームページを作成、ネット販売を始めます。そして思いつくかぎりの方法で、にんにくの情報を発信していきました。モニターも募集し、読者を多く抱えるブロガーに、種子さんに「にんにく農園」の紹介もお願いしました。これをきっかけに雑誌で紹介されるようになり、全国各地から「ぜひ取引先に！」と望む連絡が来るようになりました。



深い雪の中育てられるにんにく

人とのつながりを大切に！ ファンに支えられにんにくは完売

取引が決まると種子さんは、挨拶に出向くようにしています。訪問先からは「わざわざ青森から来てくれた！」と喜ばれ、信頼関係が生まれます。これまで取引先からは解約されず、取引先が別の飲食店を紹介してくれることも。「人と人のつながりが、世の中を動かしている。どんなにいいものをつくっても、そのつながりがなくなったら続かない」と種子さん。何もかも便利になった時代だからこそ、人とのつながりを大切に育んでいく。種子さんの真摯な姿は、「人と人がつながる豊かさ」を私たちに教えてくれるようです。



にんにくの健康情報

にんにくといえばスタミナの素！古代エジプトでは薬として使われていたほど、殺菌・抗酸化作用の強いパワフルな食品です。元気が出る食材、にんにくの健康成分をご紹介します。

アリシンで疲労回復、 滋養強壮

にんにくの匂いの素になっているアリシンには、強力な殺菌作用があります。このアリシンが、「元気の素」となるビタミンB1の吸収を助け、疲労回復や滋養強壮に効果を発揮すると言われています。

抗酸化作用で老化と 病気の予防

にんにくは抗酸化作用のある成分を豊富に含み、アンチエイジングや病気の予防に効果がある、と言われています。強力な抗酸化作用は、動脈硬化予防やがん予防なども期待できます。



「食」つうしん。

いつも弊社の商品をご利用いただき、誠にありがとうございます。
「食」つうしんは、東北で活躍している漁師さんや農家さんを集集し、東北復興を応援しております。また、あなた様の健康を「食」からもサポートしたく、東北の漁師さんや農家さんと協力して旬の健康食材を集集します。ぜひ、健康な毎日をお過ごしいただくためにお役立ていただければ幸いです。
「食」つうしん。編集部一同